

平高通信

平成 26 年度 第 4 号

島根県立平田高等学校

総務部

平成 27 年 3 月 3 日発行



祝 御卒業



卒業生入場



卒業証書授与

代表 3年1組 佐々木 健志



校長式辞



来賓祝辞

PTA 会長 北村 高明 様



卒業生代表答辞

3年4組 藤井 秀



在校生代表送辞

2年3組 渡部 雅大



卒業記念品贈呈

代表 3年2組 古川 千夏

3年1組



3年2組



3年3組



3年4組



平成26年度卒業式

校長式辞

「陽気地中にうごき、ちぢまる虫、穴をひらき出ればなり」

宍道湖の湖面も穏やかに、温かい日差しを映すことが多くなりました。時折窓から吹き込む風はまだ冷たくもありますが、野には菫のとうの花が咲き始め、春の予感がするこの頃です。この平田の地にも、ほどなく桜の便りが聞こえてくることでしょう。

本日、平成 26 年度島根県立平田高等学校卒業式を挙行いたしましたところ、北村高明 P T A 会長様をはじめといたしまして、多数のご来賓の皆様方のご臨席を賜り、巣立ちゆく卒業生の門出にひときわ華を添えていただきましたことに、高いところからではございますが、深く感謝申し上げます。

また、本日ご列席いただきました保護者の皆様方には、ここにめでたくお子様の栄えある卒業をお迎えになられましたことを、心よりお祝い申し上げます。また、これまで陰に陽にお子様を支え、育ててこられましたそのご労苦に対しまして、敬意を表しますとともに、本校教育にご理解とご協力を賜りましたこと、重ねて感謝申し上げます。

さて、先ほど、卒業証書を授与しました 158 名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。我々平田高校の教職員は、皆さんの卒業を心から祝福します。

皆さんは勉学、部活動、学校行事など、様々に活躍され、多くの成果をあげてこられました。希望する進路の実現のために日々黙々と学習する姿にはかける言葉も無く、ただ心から健闘を祈ってきました。全国大会をはじめとした多くの大会では、保護者の方々や仲間の声援を受けながらの精一杯のプレーや、全神経を集中させて黙々と作品制作に勤しむ姿に感銘を受けました。また、地域に溶け込みながらの共同作業やボランティア活動では、皆さんの活動や笑顔が多くの方々にも力を与えたことでしょう。さらに、学園祭をはじめとした学校行事では、生徒会を中心とした三年生が多くの議論を尽くし、下級生をリードしながら立派に成功に導いてくれました。生徒会役員をはじめ、多くの三年生とも意見を交してきましたが、高校生らしい発想と真摯に物事を考える様子に接し、頼もしく、また嬉しく思うとともに、改めて卒業生の皆さんの絆の強さを感じています。

皆さんが入学する一年前、東日本大震災が起こり、その後、日本は復興に向けた歩みを続けてきました。卒業生の皆さんの中にも被災地に赴き、支援活動に携わるといった貴重な体験をした人もいます。被災地は未だ復興途上にあり、日本のエネルギー問題も方向性が見いだせてはいませんが、卒業生の皆さんが本校で過ごした三年の間に日本は徐々に活力を取り戻してきました。電波塔として世界一の高さを誇る東京スカイツリーの開業や 2020 年の東京オリンピック招致の決定と「おもてなし」文化の世界発信、i p s 細胞などの再生医療やリニア新幹線、燃料電池車、はやぶさ II など、日本の魅力や技術力の高さを改めて世界に示す三年間でもありました。

一方で、領土問題や歴史認識の問題など、近隣諸国との関係悪化が日本にとって大きな喫緊の課題となってきました。また、ヨーロッパの経済危機やイスラム国の樹立宣言と世界各地で頻発するテロ行為など、国際社会では様々な問題が起こっています。25 年前、ベルリンの壁の崩壊による東西ドイ

ツの統一と冷戦の終結により、世界は平和に向けた大きな一歩を踏み出したはずでした。しかし、四半世紀が経った今、世界各地で続く紛争や飢餓と貧困に喘ぐ地域の存在など、真の世界平和には未だほど遠い状況にあります。

昨年秋、私は戦場カメラマンとして有名な渡部陽一さんのお話を聞く機会がありました。渡部さんは戦場カメラマンとなって以来、世界の戦地に赴き多くの写真を撮影し、その悲惨さを世に伝えてこられました。渡部さんは今の日本について、食べるものを選ぶことができる国、夜、街中に明かりがあり、女性でも外出したり安心して電車に乗ることができる、世界的に珍しい国だと評されました。日本の常識は世界の常識ではないということです。これから日本を背負っていくであろう皆さんには、世界を見る目と世界規模で物事を考え行動する力が必要です。そして、本を手にする事なく、情報端末で娯楽に興じていることの愚かさに気がつかねばなりません。

私はこれまで皆さんに、ものの理（ことわり）を考え、正義を考えること、日本や世界に目を向け、日本や世界のことを語れと訴えてきました。幼い頃、我々は世の中に正義は一つしかないかのように思ってきましたし、あるいは教えられてきました。しかし、実際には、ある人の正義と別の人の正義が違うことが多くあります。民族、宗教、文化の違う国家間では価値観が違うのは当然でしょうし、企業と企業、人と人の間でも同様です。皆さん、手元に向けられた視線を隣人に、世界に向けましょう。日本や世界に目を向け、何が正しいのか、何をなすべきかを自分の力で考えてください。その熟慮はきっと皆さんに本物の教養を身につけさせ、行動のための勇気を与えてくれることでしょう。

さて、この平田・出雲の地では、南に遠く三瓶山を、北に風車を据えた北山連峰を望み、眼前には穏やかに水をたたえる宍道湖の広大で優雅な光景を目にすることができます。また、平成の大遷宮で全国から多くの方々を集めた出雲大社をはじめ、歴史遺産も多くあります。将来、皆さんがどこで生活しても、豊かな自然と悠久の歴史文化を今に伝えるこの地で育ったことを誇りに思い、大切にしたいと思っています。

社会人になると、今までとは比べものにならないほど多くの人たちとの出会いがあります。高校時代以上の喜怒哀楽を経験することでしょうし、荒波にもまれることもあるでしょう。しかし、その荒波も広い大海の中では穏やかな揺れでしかありません。皆さんには皆さんを見守ってくれる多くの仲間もいます。勇気を持って大海に漕ぎ出でてください。

終わりにになりましたが、卒業生の皆さんが心身ともに健康で、広い世界でのびのびと活躍されることを心から祈念し式辞といたします。

平成 27 年 3 月 3 日

島根県立平田高等学校
校長 長野 博